

このシートの使い方

浜松市内には約 2 万人、約 80 カ国の国籍の外国人が暮らしています。国や地域によって、言葉や習慣も様々です。日本語がよく分からない場合には、情報が伝わりにくいため、日本人以上に不安が大きくなりがちです。避難所などで、日本語のよく分からない人たちが孤立しないように、このシートを使ってください。

【構成】

■**外国語表示シート**：外国語に翻訳された表示シートです。

翻訳されている言語：英語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国・朝鮮語、タガログ語（フィリピン）、ポルトガル語（ブラジル）、スペイン語（ペルー等）、ベトナム語、タイ語、インドネシア語

■**「やさしい日本語」表示シート**：分かりやすい日本語で書かれた表示シートです。

難しい熟語や漢字を使わずに書かれています。長く日本に暮らしている外国人は、ある程度の日本語ができる人も多いです。全てを翻訳できないときに、このシートも平行して使うといいでしょう。子どもにも分かりやすい表現です。

【掲示の方法】

- ・コピー機が使用可能な場合には、大きなサイズ (A3 くらい) にコピーして使ってください。
- ・コピー機等が使えない場合は、そのまま掲示してください。
- ・必要に応じて、数字や場所を入れてください。(中国語と韓国・朝鮮語は漢字とひらがなで、それ以外はローマ字で書いてください)

【避難所で注意すること】

- ・宗教等の理由で食べられないものや出来ないことがある人がいます。無理にすすめないようにご配慮ください。
- ・国によっては、夫婦や家族で名字が違うことがあります。別々の家族として扱わないようにしてください。
- ・外国籍であることを知られたくない人や普段、日本の名前（通称名）を使っている人もいます。
- ・ゆっくり簡単な日本語でアナウンスするようにしてください。
- ・自分の国の言葉でも読み書きができない人もいます。掲示だけに頼らず、同じ言葉を話す人に協力してもらおうなど、情報の伝達の工夫を行ってください。

- ・「外国人」といっても、いろいろな国や地域、言葉、習慣の人がいます。ひとまとめにせず、個々の事情を聞いてください。
- ・悲しいときや不安なときに静かに耐える傾向がある日本人に対し、悲しいときや不安なときこそ、仲間とたくさん話しにぎやかに過ごすことでなぐさめあう行動を取る文化もあります。マナー違反だと頭ごなしに伝えるのではなく、なぜそのような行動を取るのか聞いてから、ルールづくりを一緒に考えてもらったり、避難所の運営に参加してもらうのもいいでしょう。

●浜松市災害時多言語支援センターについて●

地震や津波など、大きな災害が起こったとき、浜松市は災害時多言語支援センターを設置し、外国語での情報提供など外国人支援活動を行う拠点とします。災害時多言語支援センターは浜松市多文化共生センター（クリエート浜松 4階：浜松市中区早馬町 2-1）に設置し、（公財）浜松国際交流協会（HICE ハイソ）が運営します。

（公財）浜松国際交流協会（HICE ハイソ）Tel. (053) 458-2170

【出典】

- ・「外国語表示シート」は、（財）横浜市国際交流協会の作成した『災害時に役立つ外国語の表示シート集』を基にして、自治体国際化協会が改定したものをさらに改良して利用しました。この他にも、財団法人自治体国際化協会の HP (<http://www.clair.or.jp>) に『災害時多言語情報作成ツール』が掲載されていますので、ご活用ください。
- ・「やさしい日本語表示シート」は、弘前大学人文学部社会言語学研究室の『災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』(<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/>) を利用しました。

【連絡先】

公益財団法人 浜松国際交流協会(HICE^{ハイソ})

〒430-0916 浜松市中区早馬町 2-1 クリエート浜松 4階

浜松市多文化共生センター内

TEL. (053)458-2170 FAX. (053)458-2197 E-mail. info@hi-hice.jp

2016年（平成28年）7月